

平成31年1月19日

南の風第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会

～ 女子決勝特集号パートⅢ ～

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

特集号パートⅡの続きです。

トヨタはディフェンスを3Pラインまで広げた2-3にゾーンにします。残り時間が11秒になったところで、宮澤の代わりに出た23番大沼が、エンドラインカットしてエプリンを自分引き付けた瞬間ローポストの渡嘉敷のマークが一瞬おろそかになった時、吉田から渡嘉敷にパスが渡りゴール下シュートが決まります。ゾーンの弱点（だれを守るかが明確ではない）をついた吉田の絶妙なパスでした。

ここで2Qが終了します。《トヨタ33対JX48》

後半です。トヨタは1Qのスタートとメンバーは変わりません。JXは藤岡に代わって吉田が出場します。あとの4人は変わりません。

最初の得点はJXの梅沢のローポストでのターンシュートです。トヨタもすぐに、長岡のトップからのドライブインで入れ返します。JXは速いボール運びから右コーナーにボールを落とし、吉田からミドルポストでボールを受けた渡嘉敷が、自分にヘルプディフェンスが集中した瞬間、空いた逆サイドのローポストの梅沢にパスフィードして得点します。

その後、トヨタはピック&ロールからシュートを試みますが、タフショットになってしまいシュートを決め切れません。JXは宮澤のドライブインや梅沢のローポストのシュートで得点を重ねます。

トヨタは状況を変えるべく速い展開にしたり、スクリーンを多用したりして攻めますがシュートの精度があがりません。その隙に、JXは渡嘉敷や宮澤にディフェンスが集中すると、空いた岡本が3Pシュートを確実に決め点差を広げます。《残り時間5分を残し、トヨタ37対JX56》

ここでトヨタは、三好がドリブルリトリートからジャンプシュートを決め、さらにエプリンがドライブからゴール下で梅沢のファウルを誘い、フリースローを2本沈め連続得点します。しかし流れを渡さないJXは、岡本が連続の3Pシュートを決めトヨタの反撃を阻止しに掛かります。トヨタは中の渡嘉敷と外の宮澤を抑えようとすると、どうしても岡本のマークが緩くなってしまいます。さらにJXは、オールアウトから機を見て渡嘉敷がローポストの裏に入り吉田からのループパスを受けシュートします。たまたまトヨタの馬がファウルしてしまいます。渡嘉敷がフリースローを確実に2本決めます。次の瞬間、JXはオールコートゾーンプレスを仕掛けボールを奪います。直接点にはつながりませんが、相手の攻めの気持ちを削ぐには十分な戦術です。そして、トヨタのエプリンのシュートが落ちた瞬間、速い運びから梅沢に代わった石原が走り、ビッグコーナーでボールを受け3Pシュートを決めます。的を絞らせないJXの攻めに、なす術がない状態のトヨタです。

そんな中エプリンが鋭いドライブからシュートを決めます。そしてこの後、トヨタの安間がこの試合初めての3Pシュートをトップの位置から決めます。

しかしJXは、渡嘉敷がローポストのシュートや吉田との合わせのドライブインで得点を奪い3Qが終了します。《トヨタ46対JX71》

完全にJXが波に乗り、安定してゲームを進めて行きます。